

久斗山地区公民館だより



令和8年
1月号

12月25日発行

久斗山地区公民館

【ご挨拶】 その年の世相を表わす漢字として、今年第1位に選ばれたのは「熊」だそうです。北海道や東北などでクマの被害が相次ぎ、連日のようにニュースで流れました。クマは日本に棲む野生動物において一番獰猛で、農作物の被害だけでなく、直接人に襲いかかり、怪我だけでなく死に及ぶ重大な人身被害をもたらします。これまで人里に出没するのは稀だったのが、今年は市街地まで出てくるようになり、冬眠しないクマも現れました。幸いにも但馬では、今年は山の木の実が豊作で、秋に里に出てくるクマは稀でした。しかし、油断はできません。来年は今年の反動で山の木の実が凶作になる可能性があるからです。熊に注意！

【来年も良い年になりますように！】

例年、10月1日に開催される大杉神社の例祭では、大ヒノキの根元の濁酒で吉兆を占います。今年は腐ってはいないけど水分が抜けていたので作り替えることにしました。12月14日、神社総代と村役員で仕込みを行いました。村に流れ込む七谷(イツン谷、ヒノ谷、ジャジャコ谷、門谷、宮谷、上ハタジ、下ハタジ)から水を汲み、その水と米糲などを混ぜて壺に入れ、笹の葉で蓋をして大ヒノキの根に抱かせます。後は来年の祭りの神事で開いた時に、ちゃんと濁酒になっているかどうかです。今年は災害も無く、平穏な年でした。「どうか来年も良い年でありますように」そう、しっかりと願いを込めました。



大杉神社より眼下に久斗山の集落を望む（令和7年12月14日）



【山のつるで素敵なつるかご作り】

絡みついたつるは木にとって迷惑ですが、それを使って素敵なつるかごを作ることができます。

12月13日、久斗山自然教室「アケビつるで



つるかご作り」を開催しました。定員を遙かにオーバー、大人子ども合わせて33人の参加者がありました。天気も良く、最初に近くの山沿いでつる採集をしました。公民館に帰ってきて、体育館の中でかご作りに取り組みました。最初に3本と4本の縦のつるをまん中を合わせて繋ぎ、1本切って奇数にして細めのつるを交互に絡めて編んでゆきます。小さな子どもには難しいので、大人も一緒に共同作業となります。お昼が近づき、いったん手を止めてみんなでシカ肉を使ったシチューを調理しました。日差しが暖かいので外でお昼にしました。お腹も空いていて美味しくお代わりして、大鍋の汁はあっという間に空になりました。後片付けをしたら、午後もかご作りに取り組みました。ふちを曲げて丸くして完成。中には持ち手を付ける人もいて、大小様々、形も個性的でどれ一つ同じものがない、世界に一つの素敵がつるかごが出来上がりました。さあ、これに何を入れようかな～



【東小3・4年生、地域を知るお勉強】

10月21日、浜坂東小学校3・4年生とその保護者が久斗山を訪れ、地域学習を行いました。午前中は自然観察で、大杉神社等で落葉を拾ってラミネートし、お昼はシカ肉入りのカレーを調理して食べました。午後は1人1本の笹で笛を作りました。天気も良く、久斗山の自然を楽しみました。



【災害に備えて自主防災 避難訓練】

幸いに近年、大きな災害は起きていませんが、用心にこしたことはありません。10月30日、町全体で防災訓練が挙行され、久斗山も避難訓練を実施しました。



午前8時のサイロと共に、旧久斗山小学校のグラウンドに避難しました。かかった時間は13分でした。その後、消防団により消火器の使用法の指導があり、実際に火点に向かって消火液を放出してみました。暖房で火気の使用が多くなります。火の用心が一番。なお、消防団はこの日、雪に備えて消火栓に赤旗を設置しました。

【冬期通行止めのお知らせ】

12月1日より来年3月末まで、県道549号の久斗山～熊谷間が通行止めになっています。雪が積っても除雪が行なわれません。積雪が無ければ車が通れないわけではありませんが、落石の危険もあり、十分注意してください。



【雪の季節到来！】

12月3日の夜から雪が降り、4日の朝は積雪が10cmとなり、県道は除雪車が来ましたが、昨年より10日ほど早い初雪となりました。今年は早くから寒波が訪れ、北国では大雪になっていますが、今月は比較的暖かいです。ドカ雪は困るのでどうかほどほどに・・・



【ご報告、自然公園功労者大臣表彰を拝受】

この度、山陰海岸国立公園の自然公園指導員を長年続けてきたことが評価され、自然公園関係功労者 環境大臣表彰をいただけることになり、12月17日に東京都霞ヶ関の環境省本省で青山環境副大臣より手渡されました。これを励みとし、今後も尽力する所存です。



○令和8年 1月の行事

- 1日(木) 元旦
- 7日(水) とんど焼き(6:00～ 大杉神社)・お日待(13:30～ 久斗山ふれあいセンター)
- 11日(日) 新温泉町「二十歳のつどい」
- 11日(日) 「鳴滝目指して雪上ハイキング」(9:00～15:00 上山高原エコミュージアム)
- 18日(日) 久斗山自然教室「かまくら&雪像づくり&雪あそび」(9:00～12:00 久斗山地区公民館)



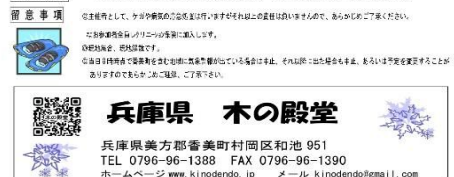
スノーシューで歩こう！

スノーシュー(西洋かんじき)で、雪上を歩きませんか！
荒れ野の森に生息する動物たちの足跡など、色々な発見があるかも・・・。

日 時	①令和8年1月18日(日)～ビギナーコース 令和8年2月1日(日)～ビギナーコース	②令和8年2月22日(日)～チャレンジコース
定 員	午前10時～午後1時(予定) ※昼食は終了後各自で 午前10時～午後3時(予定) ※お弁当をご用意ください	各回30名(申し込み順に受付、定員になり次第締め切ります)
参加費	ビギナーコース 大人 700円 小人 500円 チャレンジコース 大人 1000円 小人 800円	(長靴、スノーシュー貸出は別料金)

集合場所 木の殿堂受付
準備物 防寒着(お持ちのもの)、帽子、手袋、雪替え、サングラス、おやつ、飲み物、防寒長靴(冬用トレッキングシューズ、スノーシュー(2足はお弁当(価格:350円・スノーシュー:800円)で貸出します。申し込み時にご確認ください。)

申込方法 電話でお問い合わせの上、お申し込みください。
注意事項 ①主催者として、参加者募集の活動は行いません。参加費は別途お支払いください。②参加費は、参加費です。③当日は持参品を各自持ち帰り、自然環境を大切にしてください。



くくり罠にかかったタヌキ
罠の周りに米ぬかをまくと、それを舐めに来て罠にかかる。逃がしても、同じ個体がある。

四季の久斗山生物だより
ニホンタヌキ (哺乳類)
人里に棲みつき、昔から人間と馴染み深い野生動物です。丸っこい体型が親しみを覚えやすく、夜行性で、雑食性で生ゴミを漁ったりします。特定の場所を「溜め場」にする習性があり、繁殖期は春で、初夏にかけて五匹程度の子どもを出産します。猪(むじな)と呼ばれるアナグマと似ており、間違えられることがあります。

ちぎれ耳の大鹿 第九話
ちぎれ耳の昔話
地表を覆っていた残雪が消え、土の中に眠っていた種や地下茎からいつせいに芽が伸びてきました。芽吹き直後のそれらは、柔らかく、瑞々しくて草食の鹿は、けでなく、多くの野生動物達のお腹を満たしました。暖かな春の日差しが降り注ぐ野山は、日増しに緑が濃くなり、里山の農地は機械や人の手で耕され、畑には野菜の種が蒔かれ、田んぼの水は張られて水田となり、やがて稲の苗が植えられました。
ちぎれ耳は毎日豊かな食事にあたりつき、満ち足りていました。夜な夜な仲間といっしょに野辺を駆け回り、時には田植えが終わった田んぼに入っては、稲の苗をついばむこともありました。せっかくなので、ちぎれ耳は鹿に食われたことに気がついた農家は、田んぼの周囲に杭を立て、それに細い針金の線を張りました。ちぎれ耳はその夜も苗を食べようと、田んぼに入ってきた時、鼻先が針金に触れました。その瞬間、強い痛みと衝撃が全身を走りました。その針金には強い電流が流れていたのです。今まで感じたことのない痛み、慌ててその場から逃げたちぎれ耳は、人が耕した農地は迂闊に近づかない方がいいと身をもって学びました。
春から夏へ、さらに秋へと季節は移り、ちぎれ耳は一回り体が成長しました。頭の角も最初は柔らかな袋角が伸びて、その表皮が剥がれると中から硬く尖った角が出現しました。秋は鹿の繁殖期です。ちぎれ耳は、それまで全然意識しなかった牝鹿のことが気になり、後をついたり、排泄物の匂いを嗅いだりしました。しかし、まだ若いちぎれ耳は、まったく牝鹿から相手にされません。つづく